



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■作業項目とお願い

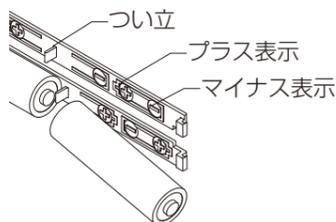
この説明書には、電気錠特有の作業や通常仕様よりも特に気をつける必要がある作業のみ記載しております。把手セットの取付けや枠の取付けは各説明書を参照し、正しく取付けください。

■電池を入れる

電池を入れる際は、スライダを引出し、表示に沿って向き(+)(-)に注意して入れてください。

※誤操作や電池消耗を避ける為、動作確認後は電池を外し、引渡し時に説明を兼ねて入れなおしてください。

■スライダー詳細図



■部品の取り付け

電動サムターンにはそれぞれのコネクタを向き等に気をつけて接続してください。

◆簡易タッチキーの場合

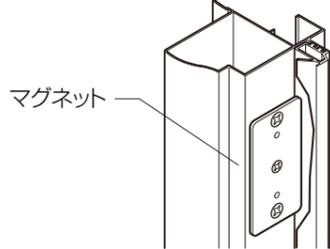
上サムターンがタッチ付電動サムターンになり、2つのコネクタを接続します。



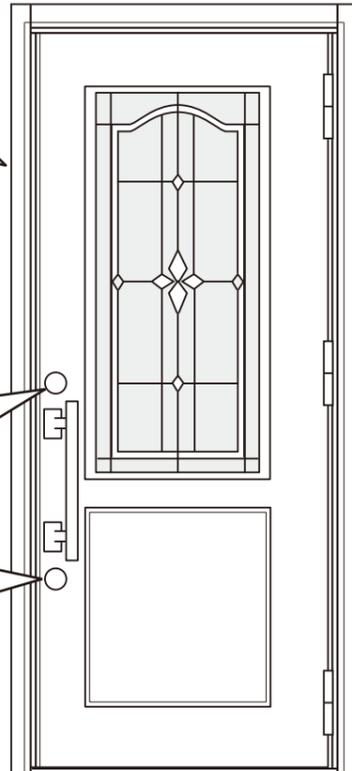
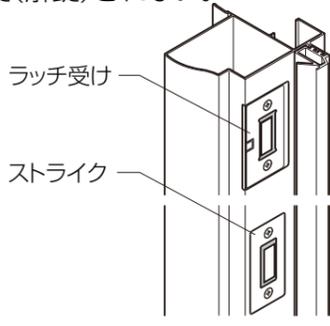
■建付け調整

ドアの建付け調整を行わないと、下記のような作動不良の原因になります。必ず建付け調整を行ってください。

●マグネットと受信器のセンサー位置がずれ、施錠されない。



●デッドボルトがストライクにこすれ、施錠(解錠)されない。



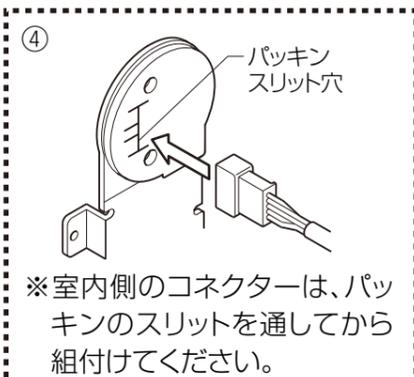
■動作確認

同梱されている、専用リモコンまたはカードキーは登録済みです。[4/4]の確認ポイントを参考に作動確認を行ってください。

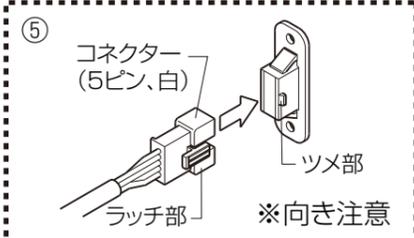
■部品取付け手順

■上シリンダー・電動サムターンの取付け

- ① ドアから8cm程度ハーネスを引出してください。
- ② 皿小ねじで上錠ケースを取付けます。
- ③ シリンダーを上錠ケースの丸穴に合わせて保持します。
- ④ 電動サムターン取付け板の中心の穴を上錠ケースの中心に合わせて、皿小ねじで保持しているシリンダーに取付けます。このときドアから引出した「室内側」とタグの付いたハーネスをあらかじめ取付け板のパッキンスリット穴に通しておきます。
- ⑤ 電動サムターンにハーネスのコネクタ1本(タッチ付き電動サムターンの場合は2本)を向きを合せて最後まで差込みます。
- ⑥ サムターンツマミを縦に向け電動サムターン取付け板にはめ込み、バインドねじ(2箇所)を取付けます。
- ⑦ バインドねじの上にねじカバー(2箇所)を取付けます。

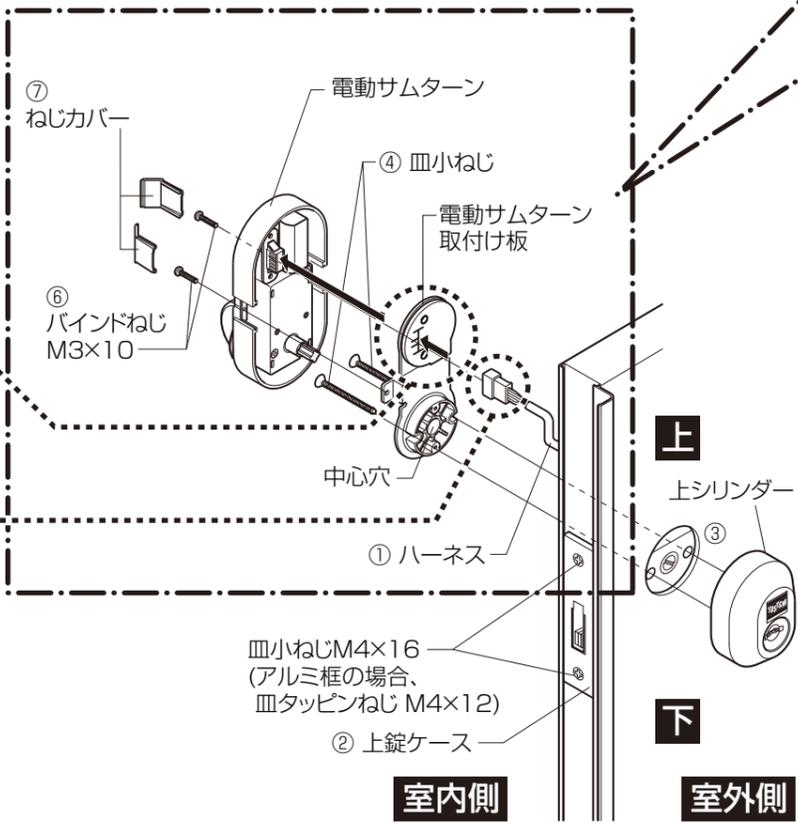


※室内側のコネクタは、パッキンのスリットを通してから組付けてください。

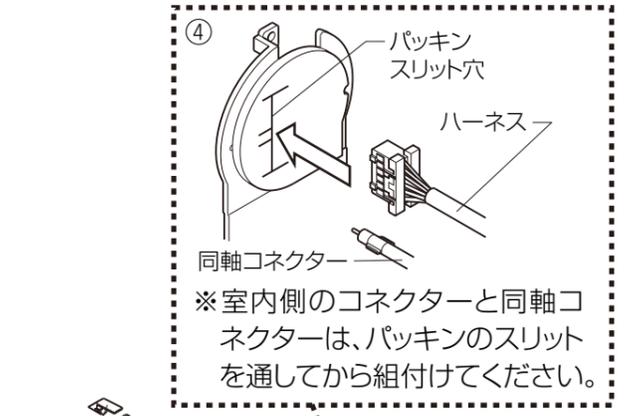


※向き注意

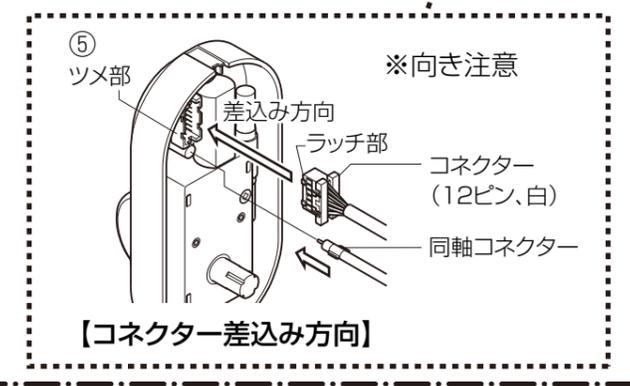
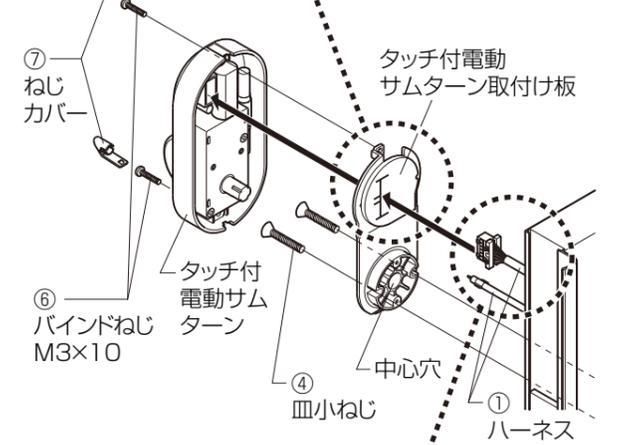
お願い
コネクタは、カチと音が鳴るまで差込んでください。作動不良の原因になります。



◆タッチ付電動サムターン取付けの場合



※室内側のコネクタと同軸コネクタは、パッキンのスリットを通してから組付けてください。

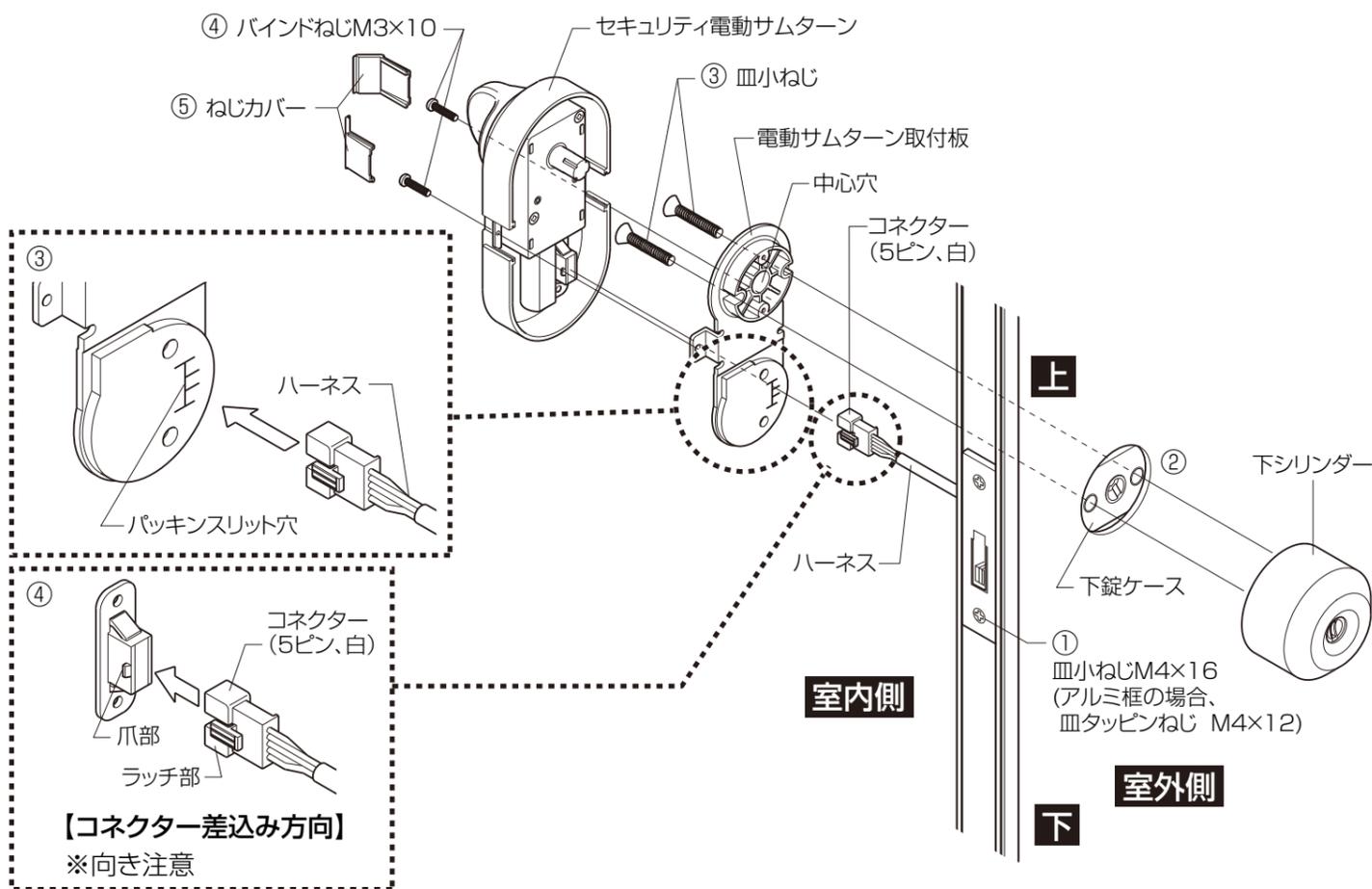


※向き注意

【コネクタ差込み方向】

2 下シリンダー・セキュリティ電動サムターンの取付け

- ①皿小ねじで下錠ケースを取付けます。
- ②下シリンダーを、下錠ケースの丸穴に合わせて保持します。
- ③電動サムターン取付板の中心の穴を下錠ケースの中心に合わせ、皿小ねじで下シリンダーを取付けます。
このときドアから引出したハーネスを、電動サムターン取付板のパッキンスリット穴にあらかじめ通しておきます。
- ④セキュリティ電動サムターンにハーネスのコネクターを差込み、サムターンツマミを縦に向け電動サムターン取付板にはめ込み、バインドねじで取付けます。
- ⑤バインドねじの上にねじカバー(2箇所)を取付けます。



■電動サムターンのポイント

●電動サムターンを使用していると、手でサムターンを回したときに「カチ、カチ」という音と共に引っ掛かり、操作が重くなることがあります。これは動作中に負荷が発生し、保護用のクラッチが働いた為でサムターンの故障ではありません。負荷の原因を取除き([3/4] ■ストライクの調整参照) 再度サムターンを電動で動作させると元に戻ります。



■電池の入れ方

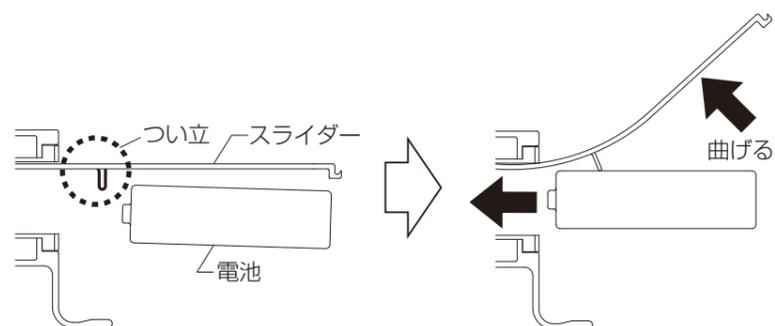
- ①受信器中央の取付けねじをゆるめ、カバーを外してください。
- ②スライダーを引出します。
- ③表示にしたい、(+)(-)を合わせて、電池をスライダーとともに挿入してください。
- ④カバーの下部を引っ掛け、ねじ止めしてください。

引渡し時に下記の内容を説明してください。

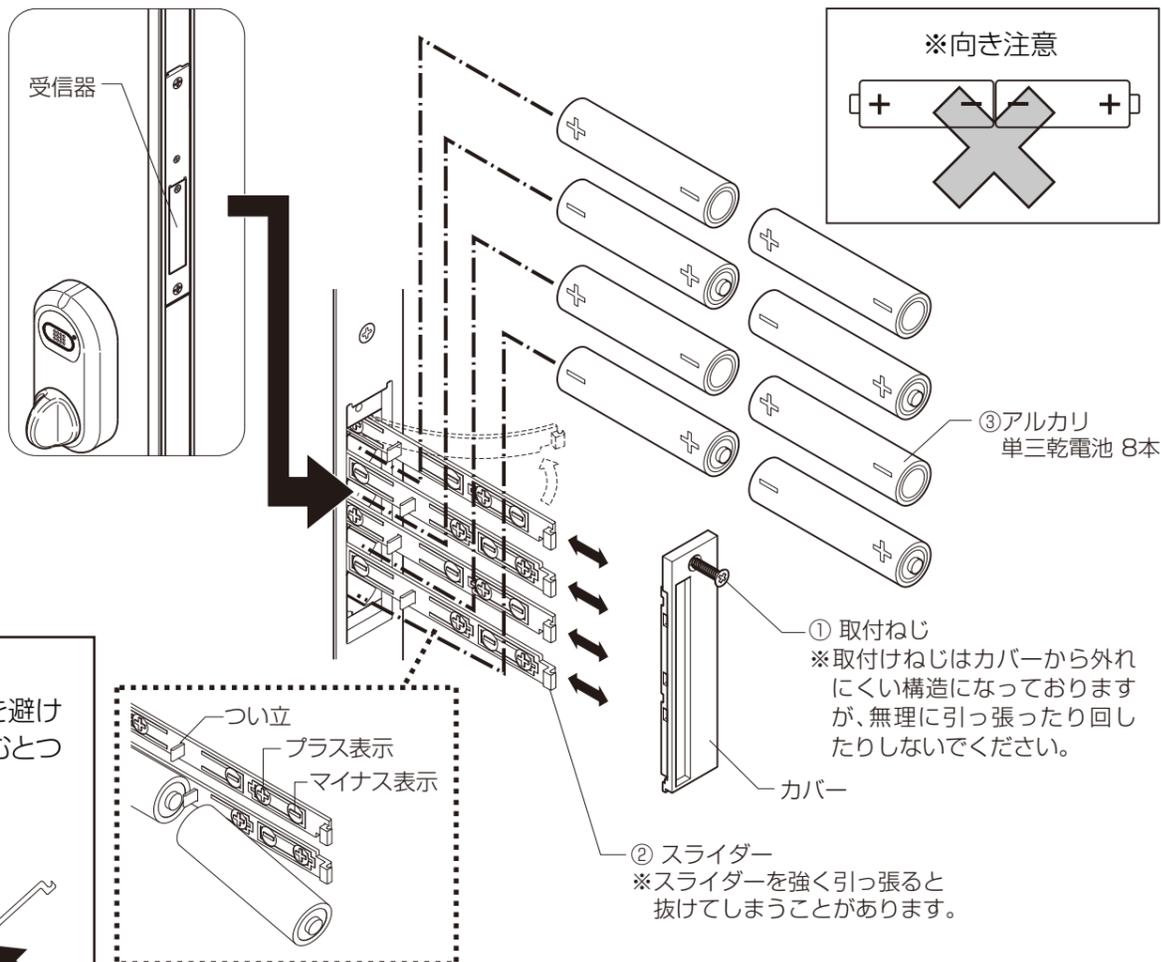
- 受信器の電池寿命は約1年です。
 - 次のような場合は、電池の交換時期です。
 - ・施錠、解錠時にピッ音が5回鳴る。
 - ・サムターンの回転速度が極端に遅くなる。
- ※電池交換時期となりましたら8本の電池を全て交換してください。電池寿命になると、電動で施錠、解錠できなくなるだけでなく、サムターンが固くなり、手でも回しにくくなる事があります。

■電池を入れる時のお願い

- 電池を入れる際は、スライダーを少し曲げながらつい立を避けて入れてください。スライダーを引出さずに電池を押し込むとつい立が変形し、作動不良の原因になります。
- ※つい立を変形させた場合は元に戻して使用してください。



- つい立は、電池を入れ間違った時の液漏れ防止の為に付いています。

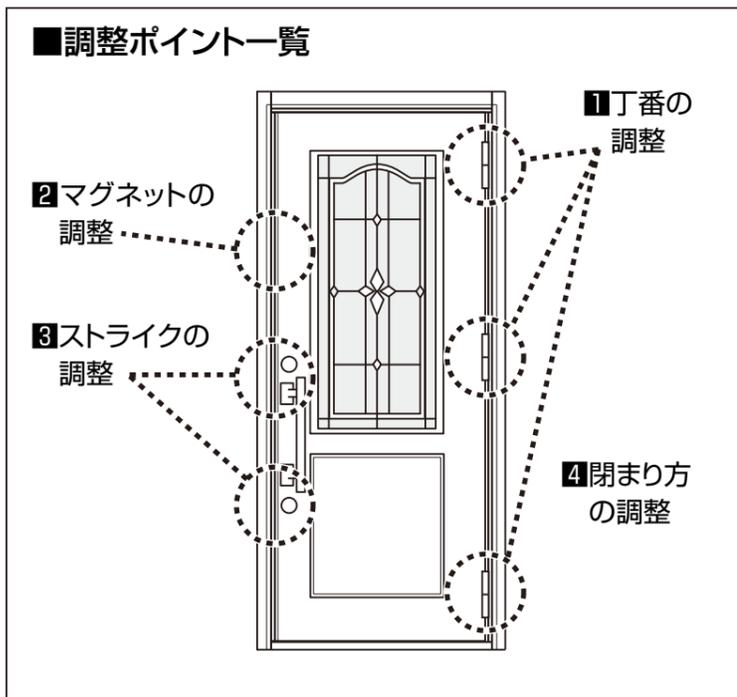


■CAZAS/簡易タッチキーシステムの電池に関する注意事項

- CAZAS/簡易タッチキーシステムはDC6V(電池4本分)で動いていますが、電池の交換頻度を少なくする為、乾電池8本の仕様になっております。上二段又は下二段の電池4本が正しく入っていれば作動しますが、他の4本の入れ間違いや入れ忘れに気づかないおそれがありますので、電池交換の際は十分ご注意ください。
- 本製品は電池を外す前の状態を記憶している為、電池を入れ、扉を閉めると意図せず自動施錠する場合がありますので電池を外す際は、手でサムターンを解錠し、自動施錠しない状態から行ってください。
- 工場出荷時の電池は動作確認用のため、寿命が短い場合があります。

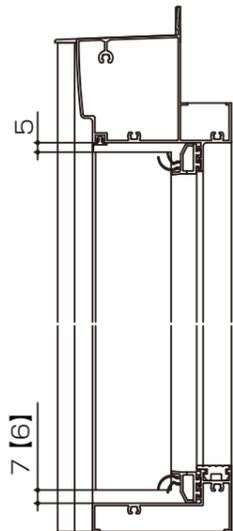
■建付け調整方法について

枠の取付け、ドア建て込み後は必ず建付け状態を確認し、調整を行ってください。
電気錠の場合は、適切に調整を行わないと作動不良が起こりやすくなります。

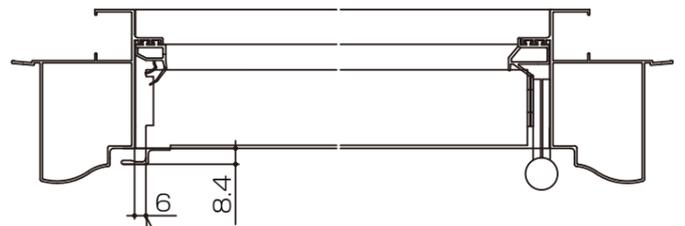


1 丁番の調整 (枠と本体のすきま調整)

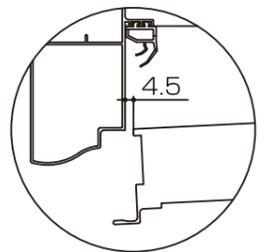
枠と本体 (又は子扉) のすき間が納まり図の通りになるように丁番を調整してください。
※丁番の調整方法は、枠に同梱されている取付け説明書をご確認ください。



※非断熱玄関ドアは
【6】mmになります。



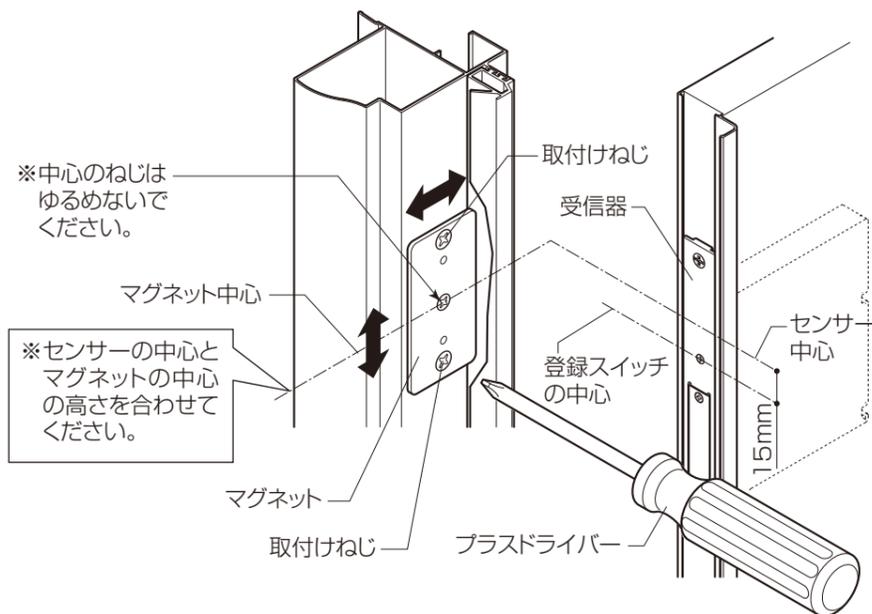
戸先のすき間寸法は、右図のように本体を少し開け、測定する事ができます。
この時、戸先のすき間寸法は、閉まっている時より、約1.5mm小さくなります。
※ドア厚60mmのドアの場合、寸法は変わりません。



2 マグネットの調整方法

枠 (子扉) についているマグネットを調整し、受信器のマグネットセンサーの中心とマグネットの中心を合わせてください。
中心がずれていると、施錠できないなどの作動不良が起こるおそれがあります。

●マグネットの取付けねじをゆるめる (1~2回まわす) と内外方向、上下方向にマグネットを調整できます。調整後は、ゆるめた取付けねじを締付け固定します。



お願い

※ドア本体と枠 (子扉) のすき間は、9mm以下にしてください。マグネットの磁力が足りず、動作不良が起こったり、デッドボルトの鎌部分がストライクに引っ掛かり、施錠、解錠ができません。

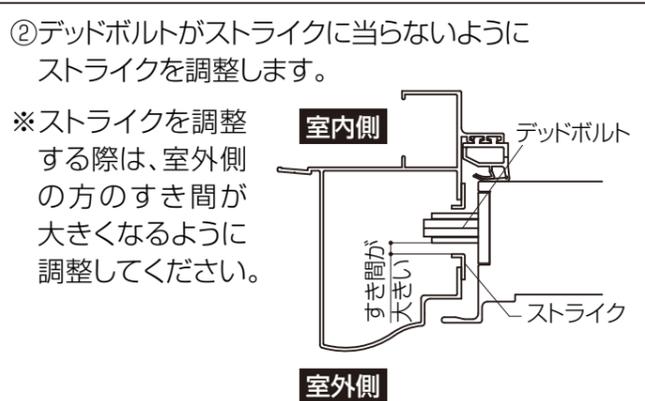
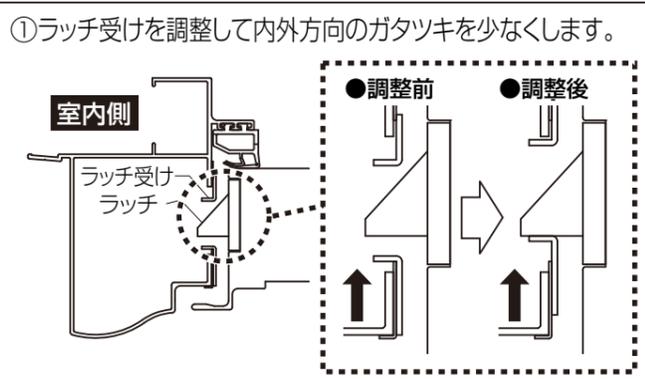
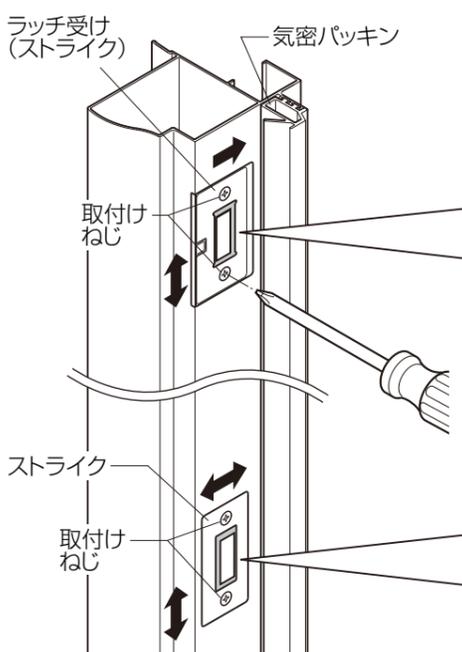
9mm以下

※取付けねじを外さないでください。外してしまうと部品の取付けができなくなります。

3 ストライクの調整

ドア本体が風に押されたりしてもデッドボルトがストライクに当たらないようにラッチ受けとストライクを調整してください。

●ストライクの取付けねじをゆるめる (1~2回まわす) と内外方向、上下方向にストライクを調整できます。調整後は、ゆるめた取付けねじを締付け固定します。



お願い

※取付けねじを外さないでください。外してしまうと部品の取付けができなくなります。

■調整を行わなかった場合について

●ラッチ受けの調整を行わなかった場合

ドアがパッキンの反発などで開こうとしているときに施錠すると…

デッドボルトがストライクに当り施錠できません。

●ストライクの調整を行わなかった場合

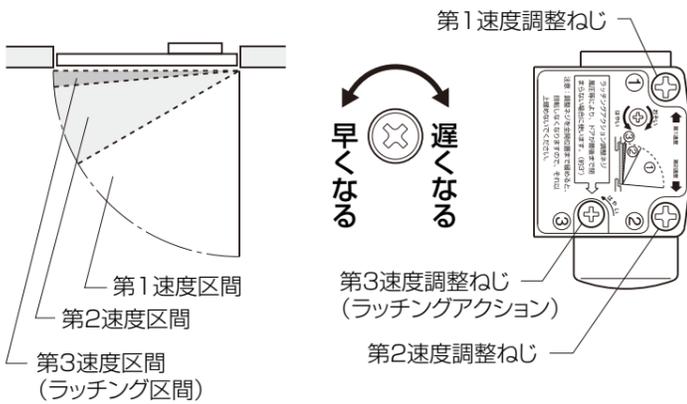
ドアが風などで押されたときにデッドボルトがストライクに当り、施錠できません。

4 ドア本体の閉まり方調整

扉がドアクローザーで確実に閉まるように、クローザーの速度や丁番を調整し気密パッキンの当たりを変えてください。閉速度が遅すぎて扉が閉まりきらない場合、自動施錠されないなどの作動不良が起こるおそれがあります。

●ドアクローザーの調整

- ・閉速度は、第1速度区間および第2速度区間、それぞれ個別の調整ねじで行います。(調整ねじは吊元側側面にあります。)
- ・適正速度は、ドアの閉じ始めから閉じ終わりまで5~8秒位です。



■ラッチングアクションとは

ドアが閉鎖位置直前(約3°)まで来た時点でドアを素早く閉める機能です。電気錠の場合、ドアが閉まりきらないと自動施錠されません。ドアの建付け状態などが原因でドアが閉りきらない場合は、第3調整ねじも調整してください。

●気密パッキンとの当たりの調整

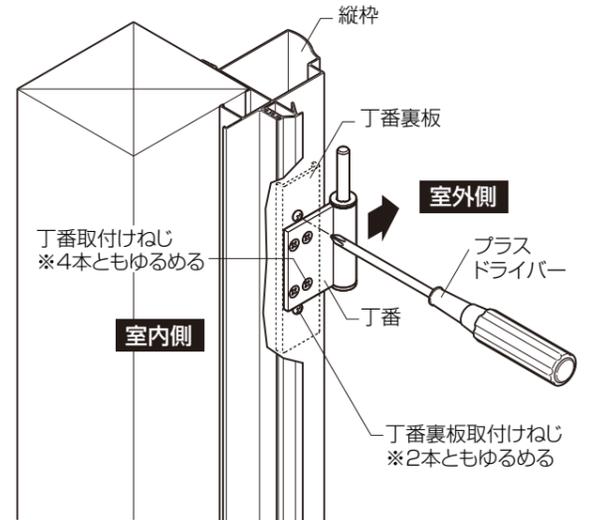
ドア本体と気密パッキンの当たりが強く、ドアが閉まりにくい場合は、丁番を調整してドア自体を室外に出す事で改善されます。(断熱ドアの熱ソリによる作動不良にも効果があります。)

- ①ドア本体を枠から外し、枠側の丁番取付けねじ(4本)と丁番裏板取付けねじ(2本)をゆるめます。

お願い
 ※取付けねじを全部外さないでください。丁番裏板が脱落し、取付けられなくなります。

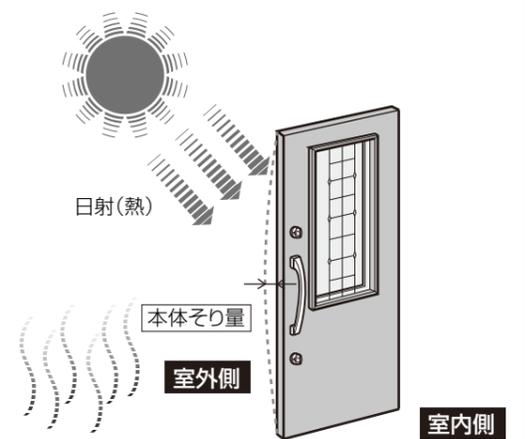
- ②丁番板ごと前に出すと室外側に1.5mm、後にずらすと-1.5mmまでドア本体が動きます。
- ③①でゆるめた丁番取付けねじと、丁番裏板取付けねじを締付けます。

お願い
 ※丁番取付けねじは、 $2.5 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($25 \pm 5 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) のトルクで止めた後、ゆるみ・ガタツキのないことを確認してください。



■断熱ドアの熱ソリについて

●断熱ドアは室内外に熱を伝えにくい構造であるため、直接日差しがあたり室内外の温度差が大きくなる場合、ドアの本体にソリが発生することがあります。(最大ソリ発生量は4~5mm) このソリは、日差しの角度が変わり、表面の温度差が小さくなると元に戻るのですが、熱ソリが発生するとドアが閉まりにくくなり、電気錠の作動不良につながります。直接日差しが当たる場合は建付け調整時に注意してください。



■動作の確認 ~故障かな...と思った時に~

【簡易タッチキー・CAZAS共通事項】

確認ポイント	考えられる原因	対策
1.扉を閉めサムターンツマミおよびカギの操作により施錠/解錠すると重い	YES → 扉の錠受け(ストライク)の取付けがずれています。	ストライクの位置を調整してください。(3/4 ■ストライクの調整 参照)
2.受信部のタッチボタン(ドアに付いているボタン)を押してもランプが光らない	YES → 電池が入っていないか電池の向きを2本以上間違えています。	電池を入れ直してください。(2/4 ■電池の入れ方 参照)
3.カードキー、タグキーもしくは専用リモコンを使って扉の施錠/解錠を行うことができない	YES → カードキー、タグキーまたは専用リモコンが登録されていないか専用リモコンの電源がOFFになっています。	専用リモコンはボタンを長押し(3秒)する事で電源をON/OFFする事ができます。詳細については取扱い説明書を参照してください。
4.カードキー、タグキーもしくは専用リモコンを使って扉を解錠できるが施錠ができない。ピ音が5回鳴る	YES → 扉が閉まっていないか枠または子扉のマグネットがずれています。	マグネット、ドアのチリ寸法を調整してください。(3/4 ■マグネット調整方法 参照)
5.カードキー、タグキーもしくは専用リモコンを使っての操作でサムターンが片方しか動かさずエラー音(ピ音)が40回鳴る	YES → 動かない方のサムターンのコネクタが接続されていません。	電動サムターンのコネクタの接続をやり直してください。
6.扉を開けた状態でもサムターンツマミおよびカギの操作により施錠/解錠すると重い	YES → 電動サムターンに、建付けの異常等の負荷がかかってクラッチが外れた状態です。これは電動サムターンの故障ではありません。	建付け調整を実施し、カードキーもしくは専用リモコンを使って扉の施錠/解錠を行なってください。(3/4 ■建付け調整方法について 参照)

【簡易タッチキー】

1.専用リモコンを使って扉を施錠/解錠を行う事ができず、タッチ付電動サムターンのランプがつかばなしになる。又は全くつかない。	YES → タッチ付電動サムターンのコネクタを逆に接続しています。またこの状態は電池の消耗が激しくなります。	電動サムターンのコネクタの接続をやり直してください。(1/4、2/4 ■部品取付け手順 参照)
2.室内側からのみ専用リモコンの反応が悪い(作動距離が短い)	YES → 同軸ケーブルのコネクタが最後まで接続されていません。	